昭和20年7月4日の空襲で焼野原となった市街(1)　戦災後間もなく撮影

昭和20年7月4日の空襲で焼けた徳島駅の災状　昭和20年10月3日　多田義夫スケッチ

戦災

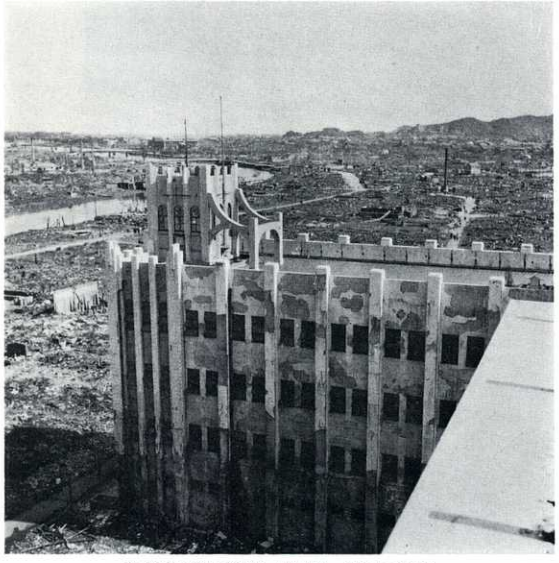
昭和16年(1941)12月8日真珠湾攻撃に火蓋を切った太平洋戦争は，緒戦の戦果も空しく，翌17年6月5日ミッドウエー海戦の敗北から攻守所をかえ次第に敗色を濃くしていった。

徳島市がはじめて米軍の爆撃機B29の攻撃をうけたのは，昭和20年6月1日で，沖洲町と末広町に小型焼夷弾が投ぜられた。以来7回にわたって爆撃が繰り返された。とくに，7月4日の空襲はもっともひどく，約100機のB29によって，一夜にして市街の70%が灰になり一望の焦土となった。死者約1,000名・重軽傷者2,000名・罹災世帯17,183・罹災人口70,295名に上り，官公衙・学校・工場・会社など，そのほとんどが灰燼に帰した。

なおこの空襲後も艦載機による機銃掃射が連日反復して行なわれ，8月15日の終戦まで続いた。

戦災24年後復興なった市街(1)　昭和44年(1969)7月撮影

昭和20年7月4日の空襲で焼野原となった市街(2)　戦災後間もなく撮影



市街中心部の災状　中央は一楽屋百貨店

昭和20年7月4日の空襲で焼けおちた徳島公園内の光慶図書館　昭和20年9月28日　多田義夫スケッチ

戦災24年後復興なった市街(2)　昭和44年(1969)7月撮影